

富士駅北口駅まちデザイン・公益施設整備運営等研究会
第3回 議事要旨

日時 : 令和4年8月3日(水) 10:00~12:00

場所 : 富士市役所 本庁舎6階 第2会議室

出席者: 亀井委員、郡司委員、後藤委員、山崎委員、森委員

事務局: 富士市 都市整備部 市街地整備課

株式会社 浜銀総合研究所

■議事要旨

1. ご報告事項について

～事務局より本公益施設に関する議会への説明経緯及び議会からいただいた意見等への対応状況等について報告～

- ・ブック&カフェとSTEAM機能は、個別に分かれるとシナジー(相乗効果)が得にくくなると考える。ブック&カフェとSTEAM機能は、利用者のコミュニケーションや偶然性の出会いも含めて考えれば、多くの人が利用する公共交通機関とのつながりは必要である。
- ・機能毎に空間を分けると、その施設を利用するという明確な目的を持っていなければ利用につながらない。また、分散配置では集客がしにくいと考える。ショッピングセンターのテナントでも目的なしの来店者が半分程度であり、一度来店すると様々な場所を回遊し、滞在している。
- ・市内外の方々に、新たな公共施設を楽しんでいただくため、「富士市の玄関口」という立地にこれらの機能を集積することに意味があると考えます。
- ・駅前立地を生かすためには、電車やバスの到着時刻と、講座の開催時間等の調整や、駅と当施設の動線を考慮する必要があると考えます。
- ・今の若年層の自家用車利用に対する意識は変わりつつあり、将来の子供をターゲットにするならば、公共交通でアクセスできる駅前立地は最適である。
- ・施設の機能の充足と富士山の眺望の両面を考えれば、もう少し高層の建物でもよいと考える。
- ・育む機能(ものづくりラボ)は、施設の特徴を出すために必要な機能と考える。一方、集う機能(ブック&カフェ)は一般的な休息施設と受け止められるため、富士市の玄関口にふさわしい機能とする必要がある。
→事務局から、単なるブック&カフェではなく、様々な講座やイベント等を開催して集客することを想定していることをご説明しました。
- ・交流プラザは利用者の年齢層や開かれる講座の対象年齢が未就学児と高齢者に寄っている印象があった。既存施設と本事業の公益施設とで講座等の連携や整合を考える必要が

ある。

2. 議事

(1) 各機能導入の必要性と整備の考え方等について

- ・市外の方が富士市に来た時に、富士市がどんな場所なのかというインフォメーションの機能が必要と考える。

→事務局から、人通りが多いと想定される2階のウェルカムコーナーにPR用のモニターを設置、活用して富士市の情報を発信したいと考えていることをご説明しました。

- ・バスの待合所を“全天候対応”とすることが示されているが、現在とあまり変わらないイメージがある。また、大型バスを置くスペースがないと、観光需要には対応できないので、そのあたり盛り込んでいただきたいと考える。

→事務局から、現状雨天時のバス待ちでは傘をさしていただく必要があるが、ピロティに乗降場を設置するとともに、施設内に待合室を設置することにより、現状よりも改善されることをご説明しました。また、大型バスなどへの対応は市街地再開発事業の区域や周辺を含め、路線バス以外の大型バスの乗降スペースを確保することを検討していることをご説明しました。

- ・ビジネスの集まりでは、安く使える会議室と会議後の飲食場所があるとありがたい。地域内外の企業とコワーキングスペースでつながれるというアイデアはよいと考える。
- ・市外から人を呼ぶときの集合場所がないので、待ち合わせ前後の利用を含めた30~40人が集合できる場所が望まれる。

- ・スタディ&ワークスペースは、机といすがあるものと考えられるが、各機能のシナジー（相乗効果）を図りながら利用頻度を上げるため、目的性を持った運用方法を考えていただきたい。このようなスペースは、個人が勉強や仕事をするためだけでなく、コミュニティを作る仕掛けづくりを応募者に提案していただくことが大事であると考ええる。

→事務局から、機能連携や運営における連携を求めるような表現を取り入れていきたい旨ご説明しました。

- ・富士市におけるSTEAM教育としてもものづくりを重視することはわかりやすい。技術とアートの融合をどう捉えるかについては、アートは、現代アートの面とリベラルアーツ・文理融合の面があると考えられる。後者については、総合的な学び、地域課題の解決、地域資源活用という視点で捉えることができると考える。

(2) 機能のつながりと施設構成、建物デザインの考え方等について

- ・機能間の連携や相乗効果のイメージが伝わりにくく、デザインの考え方でもう少し言及していただくことが望まれる。

- ・施設内の動線イメージがわからない。2階の東西の自由通路はインドア（屋内）で建築の一部となると、眺望の良い場所が、人が行き過ぎるだけのスペースになり、デザイン的にも

工夫の余地がないものになりかねない。また、動線は、各階の開館時間によって決まると考えられるため、管理運営面から 24 時間通行が可能なのかといった点で検討が必要である。

→事務局から、開館時間は 9～21 時くらいを検討しており、東西自由通路は開館時間外でも通行できる屋外空間とすることを想定していること、開館時間は公募条件として提示する必要があるため、安全、防犯面を含めて、文章として要求水準としたい旨ご説明しました。

- ・小さな子供を連れた親子連れの上下階の移動は大変なので、この点への配慮も求められる。
- ・デザインについて、市街地再開発事業と“調和を図る”必要があるのか。この条件ではデザイン上、大きな制約になると考える。
→事務局から、デザインの要求事項をどのように表現するかは難しい問題であり、調和という条件が難しいのであれば“連続性を図る”といった表現に変えることも考えられることをご説明しました。また、公益施設のみならず駅前空間全体として、特に低層部のデザインは調和を図りたいと考えており、そのために必要な適切な表現をご意見いただきたいことをご説明しました。
- ・市街地再開発事業の施設と公益施設の調和を図るのであれば、市街地再開発事業の設計事業者にもその条件を早急に提示する必要があると考える。
→事務局から、この点は市としても市街地再開発事業の設計事業者に要請していくとともに、公益施設の設計事業者に再開発の設計への監修の役割を付け加えたいと考えていることをご説明しました。
- ・デザイン面については、歴史的な資産として、製紙工場の明治のレンガ建築が挙げられるので、盛り込んでいただきたい。一昨年の文化振興課における富士市の産業遺産の報告書が参考になると考える。

(3) 整備の進め方、想定床面積、ボリュームイメージプラン等について

- ・公益施設と JR 施設は別物と理解しているが、ファサードは一体的であることが必要である。この点について教えていただきたい。
→事務局から、JR 施設については JR との協議が必要であるが、公益施設と JR 施設で統一感のあるデザインとしていきたいことをご説明しました。
- ・屋上は棟屋と人工芝だけのイメージだが、富士山だけでなく、鉄道を見る目的で人が訪れることも期待できる。屋上をより活用するならば日陰を作ったりする必要もある。
- ・設計事業者の公募に際しては、各機能の階層を分けることを必須条件とせず、自由度を考慮することが望ましいと考える。また、屋上テラスは人目が少なく、安全面に配慮が必要である。屋上の機能要件の検討と提案を求めることが望まれる。
- ・設計事業者の公募に際して提示する事例については、誤解を招かないよう設計において重

要な点を適切に例示するものとする必要がある。

→事務局から、公募に際して提示するのは各機能の面積レベルまでとし、自由度を確保したいと考えているとともに、機能間連携や屋上テラスの記載内容、提示する事例については、ご指摘の通り、再検討したいということについてご説明しました。

- ・地産の新素材として、セルロースナノファイバーによる木目調の印刷塗装する企業ができており、これらの活用を条件とすることも考えられる。

→事務局から、セルロースナノファイバーの使用については、活用方法を具体的に仕様として記載する必要があると考えられること、建築コストにも反映するため、ある程度汎用性があることが必要と考えられるとともに、産業関連部署と協議することをご説明しました。

- ・交流プラザも含めて様々な公共施設で毎日イベントが分散して実施されている印象があるので、公益施設も含めてこれらの整合性を図り、連携を図る必要があると考える。

→公益施設オープンに際しては、既存施設とのイベントのすみ分け、役割分担はしたいと考えていることをご説明しました。

- ・育む機能（ものづくりラボ）では、設備搬出入用の EV の必要性や、室内における木材の粉塵処理といった問題が発生する。設備として対応すべきものは現段階で検討が求められる。